



造船所職員として  
19年のキャリアを持つ  
新潟造船株式会社  
中村さんに聞きました！

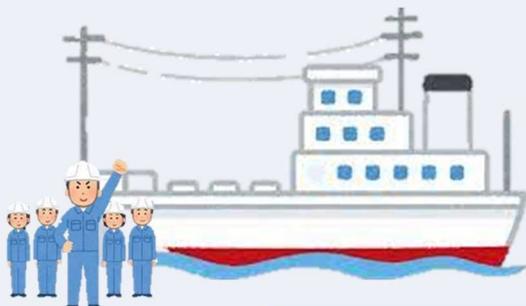


今の業務の内容を教えてください

現在は各種装備などを船体に取り付ける「艤装（ぎそう）」という行程のうち、「芯出し」といって、エンジンの動力がプロペラに適切に伝わるように測定器等を使用して連結部分が水平、垂直、直線となるように位置を調整したり、中心となる機械、設備の位置決めを行う作業を1ミリ単位で行っています。

船は大きいため、少しのずれが10メートル先では大きくずれ込む可能性があります。船がまっすぐ走るためにも、丁寧に調整する必要があります。その他機械を取り付けて、検査機関立会いのもと、ちゃんと動くかどうかの試験を行うところまでも私の部署の仕事です。

現在私の部署の人数は協力会社含め7人となっており、この7人で3隻の建造を並行して行っています。



工程ごとの期間的な長さはそれぞれどれくらいでしょうか？

私の部署は最初の設計段階から最後まで担当しており、設計部署の担当者  
と打ち合わせを行いながら進めておりますので、全体を通しては最低でも  
8か月かかります。

図面だけではわからないこともあります。現場の状況等必要に応じて図面も修正しながらより良い船を造っていきます。

造船の仕事に就いたきっかけを教えてください

造船所の近くに住んでいて、小さい頃から門型クレーン等を見て過ごしました。またモノ作りも好きで、洗った割り箸を集めて船を作ったり、電気工作もしていました。そこから工業高校に進学して、小さい頃から馴染みのある造船所で働きたいと考えて入社しました。

いざこの仕事をしてみてどうでしたか？

先輩に教わって経験しないとわからないこともあると感じました。仕事は「段取りが八割」と教わっており、物を扱うメインの作業より前の段階から、しっかり図面を見て計算をして準備していくことが大切だと考えるようになりました。

船に同じものはなく船ごとに仕様が異なり、自分でもしっかり覚えて確認するという作業が一番大変です。しかしながら、そういう一つ一つの作業が重なって最終的に船が出来上がりますので、準備した段取りをしっかりと確認しながら作業を進めています。

仕事のステップアップについて教えてください



最初は先輩の後をついて仕事を教わり、徐々に覚えたことを自分で進めるようになります。

今では完成した船の試験運転として実際に海上で動かしたり、発注者に対して完成した船の機械の説明等を行う等、社外の方と接する機会も増えていきます。

会社に入ってから、またはランクアップに応じて必要な資格はありますか？



出身の工業高校で取得した資格に加え、入社時にもいろいろな研修を受けたり資格を取ったりします。そのほか船を試運転する際の機関の免許が免除されることもあります。

仕事の上で苦勞したことはありますか？

一番苦勞した大きな仕事は、世界最大級の曳航力を持つオーシャン・ゴーイング・タグボート“ALP KEEPER”という作業船の建造です。

設計図や仕様書の表示がすべて英語で、またエンジン、軸、機械、システムも数が多く覚えることも膨大でした。

日々勉強を積み重ね、グループ会社からも色々と技術指導等いただきながら会社全体でチームワークを発揮して対応しました。  
周りのバックアップやサポートの大きさも感じたということで、自分の中で大きな経験でした。

チームワークが大切なんですね！

それでは、チームワーク向上のために何か心がけていることはありますか？

仕事中でも休憩時間においても積極的に会話をしたり、様々な人と作業状況を確認しあったりしています。  
こういったコミュニケーションは作業の中では大切だと思います。

お休みの日は何をしていますか？

若いころから続けているサッカーをすることで仕事とプライベートのメリハリをつけています。今では息子もサッカーチームに所属しているため、一緒にボールを蹴ったりして良い気分転換になっています。

高校時代に学んだ内容で、特に造船業に活かされているものはありますか？

最近では船において電気のシステムがとても多く、動いている機械を制御するのは電気ですので、電気の知識は持っているとし強みになります。



高校生に向けて造船業の仕事のアピールをお願いします！



チャレンジ精神をもって日々勉強して、最終的に船を完成させるという達成感を味わうことができる仕事です。

島国である日本にとって船は荷物を運ぶための重要な手段であり、また世界で通用する誇れる文化でもありますので、そうしたものに携われるという魅力もあります。

機会があればぜひ見学に来ていただければと思います。私自身小学校のころの「まち探検」の授業で新潟造船を訪れたこともありましたので、小中学生のころに会社に見学に来ていただいて会社の存在を知ってもらい、きっかけをつくるのが大切だと考えております。

これにより高校生になって将来の仕事を考えるときに、「そういえば船を見てすごいなと思ったな～」と思い出していただき、就職につながっていくと考えております。

本日は貴重なお話ありがとうございました！